

- 日野郡の中小規模の繁殖和牛経営では、吸血昆虫等による被害の意識が低く、ネット等による有効な対策は取り組まれていなかった。
- 技術を普及するために、モデル農家の設置、効果の広報、取り組みやすい方法の検討、自発的取組の促進等を進めた。
- 防除を実施した農家は子牛の発育向上を実感しており、経済効果も認められ、管内の平成25年の普及率は23%(13/56)に達し、普及が進んできた。

具体的な成果

1. 吸血昆虫防除技術の導入

- 吸血昆虫防除実施のモデル農家設置
ネットによるアブ・サシバエ対策の実証展示
1戸のモデル農家にネットを設置
広報紙「和牛たより」で紹介



写真1: サシバエ 写真2: ネットでの防除状況

- 技術導入希望の農家を支援
希望農家4戸のネットの施工を支援し、効果を広報し、技術の普及を促進

- 自主的に取り組む農家の支援
各農家の状況に合う、網戸、防風ネット等地域で入手出来、価格の安い器材の提案



写真3: 網戸の利用 写真4: 捕獲サシバエ

- 経済効果の調査と広域への情報発信
子牛1頭あたり8,828円の経済効果

表1 子牛出荷への効果 (1頭あたり)

区分	頭	出荷日令	出荷体重	経済効果
単位	3	日	Kg	円
H24	3	247.7	292	¥68,488
H23		262.0	281	¥59,660
効果		-14.3	11.0	¥8,828

普及員の活動

【平成22年】

- 吸血昆虫の存在と被害の広報
- 1戸のモデル農家にサシバエネットを設置し効果の確認、和牛農家へ広報

【平成23年】

- 講演会や広報紙による情報提供により、ネットによる防除を希望した4戸にネットの施工を支援
- 効果の調査と成果を広報

【平成24年】

- 自主的に取り組む農家の支援
- 各農家の状況に合わせた、利用器材の選択と施工の提案

【平成25年】

- 自主的に取り組む農家の成績調査と
- 新聞等により広域的に情報を提供

普及員だからできたこと

1. 吸血昆虫対策の必要性、対策方法とその効果を、農家に理解、納得させながら技術の普及ができた。

2. 地域で入手が容易で安価な器材や、農家自らが施工可能な技術の展開ができた。